

鍼灸科【午後部】

科目	文章理解	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)	
目 標	名文読解や随筆読解をとおして文章理解を深める。								
内 容									
1	ヒトはなぜ読みなぜ書くか、名作読み合わせ								
2	書き言葉と話し言葉、役割の変容、ネット支配時代のコミュニケーション								
3	各文の精読、小僧の神様、小説と文学の狭間								
4	名文読解、小僧の神様、主人公は誰か、倫理と含羞気障								
5	随筆読解、随筆とエッセーの違い、エッセー名人対比								
6	随筆読解、随筆とエッセーの違い、エッセー名人対比、硬派の最右翼、曾野綾子、知性と偏見								
7	随筆読解、(学術読解)、「利己的遺伝子」「芋洗う猿」「集合的無意識」								
8	文章理解、ノンプロ随筆、ベストエッセイからの涙の理由								
9	最高の達人の短編とエッセイ読解 向田邦子「父の詫び状」「犬小屋」								
10	向田邦子随筆、昭和最高の随筆作家から読み取る知性と人間性								
11	翻訳短編 0.ヘンリーの2大名作「賢者の贈り物」「最後のひと葉」								
12	翻訳短編の超有名作 ろあるだーる「南からきた男」他								
13	松本清張の一番怖い短編「家紋」巨人作家の繊細な筆、絶対的恐怖の表現								
14	宮沢賢治の詩情と激情								
15	童話の裏に広がる深い思想								
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
配布資料									
					担当講師	坂本 雅彦			

鍼灸科【午後部】

科目	文章実務	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	文章作成を通してさまざまな実務文書作成が行えるようになる。							
内 容								
1	序論「書く力がなぜ重要になっているか ビジネス分の読ませるポイント」							
2	手紙文の作成 私信の挨拶状、案内状、季語と前文と結語の選び方							
3	ワードで作る文章の優位点、開店挨拶状を実際に作る							
4	ワード文章作成、挨拶状、私信と公信の違い、知性を感じるレイアウト							
5	ネガティブレター お詫び状 始末書 ネガティブレターの重要性、ポジティブな意味							
6	ネガティブレター お詫び状作成、文書とレイアウト							
7	履歴書を作る 学歴・職歴・同期の書き方							
8	ビジネス文書 ワードとエクセルのハイブリッド文書							
9	請求書を作る ワードとエクセルの複合型書類							
10	ワード文書作成 クリスマス案内状 イラスト マップ レイアウト処理テクニック							
11	エクセルによる文章作成 ページ設定 ワードデータ移動							
12	ワードで作る季節のカード クリスマスカード 年賀状の実作							
13	企画書作成 企画書の構成 客をひきつける要素 背景説明コンセプト							
14	稟議書 社内外メールの作成 企画書推進実績に伴う根回し文書の実際							
15	課題文章の実作 履歴書 添え状 企画書							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
配布資料								
						担当講師	坂本 雅彦	

鍼灸科【午後部】

科目	政治経済学	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	マーケティングの基本的な考え方やマーケティング理論を学ぶ。また、公民や憲法、現代社会について学ぶ。							
内 容								
1	オリエンテーション							
2	マーケティングの基本的な考え方、3C、4Pの概要							
3	マーケティング理論、市場と消費者の見方 (AIDMA, AISASの法則等)							
4	マーケティング理論 (自社と競合)							
5	マーケティング理論 (製品戦略)							
6	マーケティング理論 (価格戦略)							
7	マーケティング理論 (流通チャネル戦略)							
8	マーケティング理論 (プロモーション戦略)							
9	マーケティング理論 (その他総合問題、プロモーション)							
10	マーケティング理論 (各問題の復習)							
11	マーケティング理論 (公民分野/現代の日本社会)							
12	公民/人権と憲法 (人権思想の発達)							
13	人権と憲法/人権思想の発達							
14	政治/憲法的人権							
15	現代社会							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
配布資料								
						担当講師	稲塚 久馬	

鍼灸科【午後部】

科目	現代社会 (コミュニケーション)	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)	
目 標	生きている世界を題材にした現代社会を学ぶ。								
内 容									
1	経済連携、TPP								
2	独裁者の時代、1989年天安門、ベルリンの壁、ソ連崩壊からプーチンへ								
3	独裁者の時代、アメリカと中国 2 大国家の確執								
4	世界の問題① 日本の公害、地球温暖化と対策								
5	世界の問題② エネルギー問題、化石燃料と環境問題、可採限度、原発、シェールガス								
6	人口問題、人口ピラミッド、少子高齢化、福祉負担、特殊出生率								
7	女性の社会進出、M字型曲線にみる日本の後進性、フランスの先進性、ジェンダーとセックス								
8	日本の労働問題と将来の不安、女性不平等、社員の差別、産業比率、自給率								
9	日本の労働現況、労働力不足と入管法改定、産業構造の歪み、工業立国								
10	日本の労働現況、日本の産業力、自動車、電機業界、外国人労働力								
11	日本の産業の未来、工業日本の抛り所、2011年の仕分けの失敗、ロボット工業								
12	今年の世界、第二次冷戦構造、韓国の迷走、ポピュリズム世界化								
13	世界情勢 韓国と日本の外交史、アジアの現在の混迷と憂慮								
14	日本の問題 (おさらい) 、技術力の後退、産業のアンバランス、高齢化社会対応								
15	課題の取り組み								
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
配布資料									
					担当講師	稲塚 久馬			

鍼灸科【午後部】

科目	生物学		必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)	
目 標	人体を理解するため、中学・高等学校の「生物基礎・生物(旧課程：生物Ⅰ・生物Ⅱ)」の内容の特に人体に関する事項に絞り、細胞の仕組みから、遺伝、反応、恒常性についての基礎的な理解を深める。									
内 容										
1	イントロダクション	生物に必要な基本の用語・単位								
2	第1章	細胞のしくみ								
3	第2章	細胞のはたらき								
4	〃	遺伝のしくみ								
5	第3章	刺激の伝達の仕組み								
6	第4章	視覚・聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚								
7	第5章	体液の恒常性								
8	〃	生体防御のしくみ								
9	〃	循環器系のしくみ								
10	〃	呼吸器系のしくみ								
11	〃	排泄や吸収のしくみ								
12	〃	内分泌系のしくみ								
13	〃	生殖器系のしくみ								
14	〃	体温のしくみ								
15	〃	神経のしくみ								
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
看護に必要な やりなおし生物化学 照林社										
						担当講師	会田 夏希			

鍼灸科【午後部】

科目	保健体育	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	健康に対する幅広い理解と生涯にわたる応用力を養う。 加えて、専門的な運動実践法を学ぶ。							
内 容								
1	オリエンテーション (授業の概要と進め方)							
2	心身の発達の特徴と運動							
3	生活とスポーツの意義・生活文化としてのスポーツ							
4	学生にとっての健康・体力のためのスポーツ							
5	運動の科学 (生理学、力学、心理学)							
6	運動の種類、特徴と技術の構造・オリンピック物語							
7	各種スポーツの練習法①基礎体力トレ・陸上競技							
8	各種スポーツの練習法①トリム運動、母子の幼児体操							
9	運動の練習と安全対策 傷害予防、応急処置							
10	社会生活と体育 中央・地方の体育行政							
11	性とスポーツライフサークル・健康管理・環境管理							
12	栄養と健康 ①食事と心身の健康							
13	栄養と健康 ②健康な食事の条件・栄養の至適供給							
14	栄養と健康 ③運動と食事摂取・アルコール・喫煙							
15	世界と日本のスポーツ事情 過去・現在・未来							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
配布資料								
						担当講師	駒崎 秀雄	

鍼灸科【午後部】

科目	英語	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	患者とのやり取りは大きく2つのタイプに分けられる。一つは患者への質問、もう一つは患者に指示や説明をすることである。日本在住の外国人が急増している今、医療スタッフにとって外国人患者との意思の疎通を図れることは重要な責務の一つになっている。ここでは中学英語の基礎を復習した後、医療英語や医療英単語、簡単な会話のやり取りなどを学習していく。							
内 容								
1	イントロダクション							
2	Body Parts①							
3	Body Parts②							
4	Body Parts③							
5	Bones							
6	Muscles							
7	Joints							
8	医療英語の成り立ち							
9	英会話表現①							
10	英会話表現②							
11	英会話表現③							
12	英会話表現④							
13	英会話表現⑤							
14	英会話表現⑥							
15	総括							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック 医道の日本社								
					担当講師	坂本 雅彦		

鍼灸科【午後部】

科目	運動学	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	人体の形態と構造を学び、健康と病気の成り立ちを理解するための基盤を形成することを目的とする。 人体の基本単位である細胞および組織の形状・名称・機能を学び、全身の骨形状・名称や機能を学ぶ。							
内 容								
1	解剖学概要説明、細胞、組織学							
2	細胞							
3	組織学							
4	組織学、解剖学的身体指標							
5	骨学概論							
6	体幹部（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨）							
7	体幹部（胸骨、肋骨）							
8	上肢部（肩甲骨、鎖骨）							
9	上肢部（上腕骨、橈骨、尺骨）							
10	上肢部（手根骨、指骨）							
11	下肢部（寛骨）							
12	下肢部（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨）							
13	下肢部（足根骨、趾骨）							
14	頭部（頭蓋骨）							
15	頭部（頭蓋骨）							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
解剖学 医歯薬出版株式会社								
						担当講師	桑原 俊男	

鍼灸科【午後部】

科目	解剖学 I	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	人体の形態と構造を学び、健康と病気の成り立ちを理解するための基盤を形成することを目的とする。 人体の基本単位である細胞および組織の形状・名称・機能を学び、筋の形状・名称や機能を学ぶ。							
内 容								
1	筋学概論							
2	上肢部（上肢帯周囲）							
3	上肢部（上腕部）							
4	上肢部（前腕部）							
5	上肢部（手部）							
6	下肢部（下肢帯周囲）							
7	下肢部（大腿部）							
8	下肢部（下腿部）							
9	下肢部（足部）							
10	体幹部（背部）							
11	体幹部（胸部・腹部）							
12	頭頸部（顔面部）							
13	頭頸部（後頸部）							
14	頭頸部（前頸部）							
15	総括							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
解剖学 医歯薬出版株式会社								
						担当講師	桑原 俊男	

鍼灸科【午後部】

科目	生理学 I			必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64 (4)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	医学の基礎を構成する生理学では人体の機能と生命現象について学びます。実際の訪問鍼灸施術での臨床経験を活かして人体を構成する最小構成要素である、細胞の基本構造と機能について学び、細胞によって諸臓器が構成され、その諸器官の機能とそれらを支配する神経系(自律神経)の働きについて実際の患者ではどのように肉眼で観察することができるのかという教育をおこなっていきます。									
内 容										
1	生理学の基礎	生理機能、細胞の構造と機能	17	筋	骨格筋の構造と働き					
2	〃	物質代謝、体液の組成と働き	18	〃	筋収縮・エネルギー供給の仕組み					
3	〃	物質移動	19	〃	心筋と平滑筋					
4	神経	神経細胞の構造と働き	20	運動	骨格筋の神経支配、運動調節					
5	〃	神経線維の興奮の伝導	21	〃	運動調節					
6	〃	シナプス伝達	22	〃	錐体路・錐体外路、発語					
7	〃	中枢神経系の分類と機能	23	感覚	感覚分類、一般的性質					
8	〃	反射と脊髄	24	〃	体性感覚、内臓感覚					
9	〃	脊髄	25	〃	痛覚					
10	〃	脳幹、小脳、視床	26	〃	味覚・嗅覚、聴覚					
11	〃	視床下部、大脳	27	〃	平衡感覚、視覚					
12	〃	大脳	28	生体の防御機構	生体防御、免疫反応					
13	〃	脳脊髄液、末梢神経系	29	身体活動の協調	生体の適応、恒常性の維持					
14	〃	自律神経系	30	〃	バイオリズム					
15	〃	自律神経系	31	総括						
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
生理学 医歯薬出版株式会社										
				担当講師	木村 健太郎					

鍼灸科【午後部】

科目	はりきゅう理論Ⅰ		必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】									
目標	鍼灸整骨院での勤務経験を活かしてはりきゅう理論全般で東洋医学的な立場を尊重しつつ現代医学的な考察を中心として教育する。理論を正しく理解することは患者クライアントのニーズを満たすことの近道であるし、また医療過誤が起きてしまったさいに自分やその従業員を守ることも必要なことである。本科目では実務的な経験から特に患者、クライアントへの「説明と同意」、同時にリスク管理の観点からも具体例を教育する。								
内 容									
1	鍼の基礎知識	豪鍼とは							
2	〃	古代九鍼と現代的解釈							
3	基本的な穿刺	刺鍼の基本操作（術式）							
4	〃	基本17手技と関係法規							
5	特殊鍼法	小児鍼の種類と手技							
6	〃	皮内鍼と円皮鍼の製品について							
7	〃	灸頭鍼とリスク							
8	〃	耳鍼療法の効果とリスク							
9	〃	頭鍼療法の概要と効果、リスク							
10	〃	吸角療法と注意							
11	〃	はり、きゅうの刺激量							
12	〃	生体の感受性とOD							
13	〃	鍼治療の適応と禁忌							
14	灸術の基礎知識	材料と刺激量、感受性と効果							
15	灸術の臨床応要	灸療法の医療過誤と副作用							
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
はりきゅう理論 医道の日本社									
						担当講師	増田 知行		

鍼灸科【午後部】

科目	はりきゅう理論Ⅱ		必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】									
目 標	鍼灸整骨院で勤務している経験を活かして、医療においてはサイエンスとエビデンスは類似していることを教育する。すなわちレシピ通り物事を施行することができたなら目的とする結果の再現性の確立は一定に保つことができるということである。とくに鍼灸臨床は前時代的な「やった」「効いた」「治った」などが重要視されているがそれよりも「何をどのくらい施行したのか」「効果をスケールで計測するとはどのようなことなのか」「症状寛解とは具体的にどこか」ということを検証し、臨床を重ねてゆく必要がある。本科目では実務的な視線で客観的に臨床所見を判断することができる鍼灸師教育を行う。								
内 容									
1	鍼治効の基礎	末梢における刺激の受容と伝導							
2	〃	感覚の中枢内伝道路							
3	〃	鍼刺激と反射							
4	〃	鍼鎮痛とは							
5	〃	血流改善のメカニズム							
6	〃	治療的作用							
7	関連学説	サイバネティックス							
8	〃	ホメオスタシス							
9	〃	ストレス学説							
10	〃	レイリー現象							
11	生理学的考察	圧自律神経反射							
12	リスク管理	施術上の一般的、特異的注意							
13	〃	医療過誤							
14	〃	感染症対策							
15	臨床応用	生体の感受性、リスク管理							
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
はりきゅう理論 医道の日本社									
						担当講師	増田 知行		

鍼灸科【午後部】

科目	東洋医学概論			必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	64 (4)
目 標	東洋医学の基本的な考え方・特徴・思想を理解する、また、西洋医学との違いを理解し、臨床で生かせるようにする。									
内 容										
1	第1章	東洋医学の特徴	17	第4章	四診					
2	第1節	東洋医学の沿革・歴史	18	第1節	神について					
3	〃	東洋医学の成立と発展	19	〃	色 形 態					
4	〃	東洋医学の歴史と日中交流	20	〃	舌診					
5	第2節	人体 人と自然の統一性	21	第2節	声診 呼吸等					
6	〃	虚実と標本	22	第3節	問診 問診の進め方 (主訴)					
7	第3節	東洋医学的治療	23	〃	基本的問診事項 (寒熱等)					
8	〃	治療法	24	〃	その他の問診事項					
9	第4節	日本の東洋医学の現状	25	〃	身体各部の症状					
10	〃	東西両医学の違い	26	第4節	切診					
11	〃	東洋医学的な視点	27	〃	反応					
12	〃	日本伝統鍼灸の特徴と中医学	28	〃	腹診					
13	第3章	東洋医学の思想 陰陽学説	29	〃	切経・経穴診					
14	〃	人体の五行	30	〃	脈診					
15	〃	飲食物の五行	31	〃	四診合参					
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
新版東洋医学概論 医道の日本社										
					担当講師	内田 舜				

鍼灸科【午後部】

科目	病態生理学	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	疾病の発生機序、体内での変化の過程を理解し適切な施術が行えるよう、患者の現状を正しく理解できるようになる。また、適切病態把握の治療部位を導き出せるように症例検討を行い、施術における一連の流れをイメージする。							
内 容								
1	鍼と生理学①							
2	鍼と生理学②							
3	外傷学①							
4	外傷学②							
5	外傷学③							
6	外傷学④							
7	鍼灸治療に必要な病態把握と東洋医学の活用①							
8	鍼灸治療に必要な病態把握と東洋医学の活用②							
9	痛みのメカニズム							
10	臨床における鑑別法							
11	ケーススタディー (肩関節周囲炎①)							
12	ケーススタディー (肩関節周囲炎②)							
13	ケーススタディー (病態評価と生理学的な思考)							
14	ケーススタディー (論文を読み解く①)							
15	ケーススタディー (論理解②)							
16	効果判定							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
解剖学・生理学・東洋医学概論・経絡経穴概論 配布資料								
						担当講師	佐藤 美紀	

鍼灸科【午後部】

科目	生体観察学	必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	頭頸部・体幹・上肢筋・骨盤・下肢筋の起始停止を確認し、目的の筋を動かし、鍼灸施術に応用する。また、鍼灸施術を行う上で、目的の筋に刺鍼できるように的確な触察能力を身につけることを目標にする。							
内 容								
1	生体観察の意義							
2	体幹部（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨）							
3	体幹部（胸骨、肋骨）							
4	上肢部（肩甲骨、鎖骨）							
5	上肢部（上肢帯周囲）							
6	上肢部（上腕骨、橈骨、尺骨）							
7	上肢部（手根骨）							
8	上肢の復習							
9	下肢部（寛骨）							
10	下肢部（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨）							
11	下肢部（下肢帯周囲）							
12	下肢の復習							
13	頭部							
14	顔面部							
15	総括							
16	効果判定							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
解剖学・生理学・東洋医学概論・経絡経穴概論 配布資料								
					担当講師	松丸 啓司		

鍼灸科【午後部】

科目	はりきゅう実技基礎			必修	履修 学年	1	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	64 (2)	
【実務経験のある教員等による授業科目】											
目標	施術所での臨床経験を活かして消毒や医療過誤について施術所でおこりうる具体例をあげ、安全な刺鍼法を教育する。そのためには・片手挿管が出来る・安全・衛生面に配慮しながら、基本的な鍼の打ち方、押手の三庄が出来るようになる・骨度法を理解し、ヒトの体のランドマークを目標に取穴を行い、正確に刺鍼することが出来るというような対人の教育を行う。										
内 容											
1	オリエンテーション	実技室の使い方	17	取穴法	下肢・上肢の取穴						
2	基礎知識	道具の確認	18	〃	足の陽明胃経						
3	〃	手洗い方法・消毒への理解	19	〃	足の太陰脾経						
4	〃	鍼の基礎知識	20	〃	手の陽明大腸経						
5	基礎技術	挿管方法（両手挿管・片手挿管）	21	〃	手の太陰肺経						
6	〃	押手と前柔撚、後柔撚	22	〃	足の少陰腎経						
7	〃	練習台を使って刺鍼練習	23	〃	足の太陽膀胱経						
8	〃	直刺、斜刺、横刺	24	〃	手の太陽小腸経						
9	〃	送り込み、捻鍼	25	〃	手の少陰心経						
10	〃	単刺での連続刺鍼	26	〃	足の厥陰肝経						
11	〃	目的の深さまでの刺鍼	27	〃	足の少陽胆経						
12	〃	自身の下腿への刺鍼	28	〃	手の厥陰心包経						
13	〃	単刺・単刺での連続刺鍼	29	〃	手の少陽三焦経						
14	〃	目的の深さまでの刺鍼	30	〃	腰背部の取穴						
15	〃	取穴に必要な体のランドマーク	31	総括							
16	効果判定試験		32	効果判定試験							
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
はりきゅう実技（基礎編） 医道の日本社 配布資料											
					担当講師	椎名 賢太郎					

鍼灸科【午後部】

科目	はりきゅう応用実技Ⅰ			必修	履修 学年	1	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	64 (2)	
【実務経験のある教員等による授業科目】											
目 標	施術所での臨床経験を活かして、消毒液にたいする過敏反応がでる患者への消毒や医療過誤について施術所でおこりうる具体例、刺激過多の実際の現象をあげ、安全な刺鍼法を教育する。下記の内容を参照すること。										
内 容											
1	基礎実習	施術上の注意	17	刺鍼中の手技	復習						
2	刺鍼の方法	管鍼法・撚鍼法	18	経穴への刺鍼	前腕部への刺鍼（経穴）						
3	〃	〃	19	〃	肘部への刺鍼（経穴）						
4	刺鍼の方法刺鍼 の角度	直刺・斜刺・横刺	20	〃	肩部への刺鍼						
5	〃	〃	21	〃	腹部への刺鍼（経穴）						
6	刺鍼中の手技	自体への刺鍼	22	〃	腰部への刺鍼（経穴）						
7	〃	〃	23	〃	上背部への刺鍼（経穴）						
8	〃	〃	24	〃	臀部への刺鍼（経穴）						
9	〃	自体への十七手技	25	〃	足関節への刺鍼（経穴）						
10	〃	〃	26	〃	下腿部への刺鍼（経穴）						
11	〃	〃	27	〃	膝関節部への刺鍼（経穴）						
12	〃	相対への十七手技	28	〃	頭部への刺鍼（経穴）						
13	〃	〃	29	〃	頸部への刺鍼（経穴）						
14	〃	〃	30	〃	顔面部への刺鍼（経穴）						
15	総括		31	総括							
16	効果判定試験		32	効果判定試験							
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
はりきゅう実技（基礎編） 医道の日本社 配布資料											
						担当講師	木村 健太郎				

鍼灸科【午後部】

科目	はりきゅう治療実技Ⅰ			必修	履修 学年	1	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	64 (2)
【実務経験のある教員等による授業科目】										
目 標	鍼灸整骨院での臨床経験を活かして灸術の基礎を身に付けること、安全・衛生に配慮しながら用途に応じた灸を作ることを教育する。									
内 容										
1	総論	もぐさの捻り方	17	復習	板上への施灸（点火）・紙施灸					
2	基本練習	板上への施灸（無点火）	18	膝周辺への施灸	基本練習・相モデルへ施灸					
3	〃	板上への施灸（無点火）	19	〃	〃					
4	〃	板上への施灸（点火）	20	足関節の施灸	〃					
5	〃	竹筒への施灸	21	〃	〃					
6	〃	〃	22	手関節への施灸	〃					
7	〃	紙上への施灸	23	〃	〃					
8	〃	〃	24	肘関節への施灸	〃					
9	〃	〃	25	〃	〃					
10	失眠への施灸	基本練習・相モデルへ施灸	26	腰部への施灸	〃					
11	〃	〃	27	〃	〃					
12	足三里への施灸	〃	28	腹部への施灸	〃					
13	〃	〃	29	〃	〃					
14	膝周辺への施灸	〃	30	大椎への施灸	〃					
15	〃	〃	31	〃	〃					
16	効果判定試験		32	効果判定試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
はりきゅう実技（基礎編） 医道の日本社 配布資料										
					担当講師	増田 知行				

鍼灸科【午後部】

科目	臨床実習基礎		必修	履修 学年	1	授業の 方法	実習	時間 数 (単位 数)	64 (1)
【実務経験のある教員等による授業科目】									
目 標	鍼灸整骨院での勤務経験から実習室で規則・規律を守り行動することの徹底した教育を行う。 ・身だしなみを整え、適切な挨拶、言葉遣いを行う。 ・問診から必要な情報を収集し整理する。 ・疾患、病態から必要な検査測定項目を列挙し計画できる。 ・対象者とのコミュニケーションの中から情報収集を行うことを確実に実行に移すことのできる教育を行う。								
内 容									
1	実習基礎	実習室の使い方							
2	〃	タオルワーク							
3	〃	ワゴンワーク							
4	問診	問診上の注意点							
5	〃	問診の基礎							
6	〃	〃							
7	〃	オープンクエスチョン							
8	〃	クローズドクエスチョン							
9	〃	問診まとめ							
10	触察	頸部 (筋・骨)							
11	〃	頸部 (筋・骨)							
12	〃	胸背部 (筋・骨)							
13	〃	〃							
14	〃	〃							
15	〃	腰部 (筋・骨)							
16	実技試験								
17	触察	下肢 (大腿)							
18	〃	〃							
19	〃	下肢 (膝)							
20	〃	下肢 (下腿)							
21	〃	下肢 (足関節)							
22	総括								
23	効果判定								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
解剖学・生理学・東洋医学概論・経絡経穴概論 配布資料									
						担当講師	増田 知行		

鍼灸科【午後部】

科目	実践東洋医学臨床論			必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 <small>(単位数)</small>	64 (4)	
目 標	東洋医学的視点に基づいた臓腑について理解し、臓腑と経絡についてその関係性や作用を学ぶ。										
内 容											
1	東洋医学の概要について	17	足の太陽膀胱経① (流注・部位・取穴・注意点)								
2	東洋医学の健康感と疾病感	18	足の太陽膀胱経② (流注・部位・取穴・注意点)								
3	経絡経穴の概要	19	足の太陽膀胱経③ (流注・部位・取穴・注意点)								
4	経絡経穴の臨床への活用について	20	足の太陽膀胱経④ (流注・部位・取穴・注意点)								
5	経絡経穴の要穴・骨度法	21	足の少陰腎経① (流注・部位・取穴・注意点)								
6	督脈	22	足の少陰腎経② (流注・部位・取穴・注意点)								
7	任脈	23	まとめと確認テスト								
8	手の太陰肺経 (流注・部位・取穴・注意点)	24	手の厥陰心包経 (流注・部位・取穴・注意点)								
9	手の陽明大腸経 (流注・部位・取穴・注意点)	25	手の少陽三焦経 (流注・部位・取穴・注意点)								
10	足の陽明胃経① (流注・部位・取穴・注意点)	26	足の少陽胆経① (流注・部位・取穴・注意点)								
11	足の陽明胃経② (流注・部位・取穴・注意点)	27	足の少陽胆経② (流注・部位・取穴・注意点)								
12	足の太陰脾経 (流注・部位・取穴・注意点)	28	足の厥陰肝経 (流注・部位・取穴・注意点)								
13	手の少陰心経 (流注・部位・取穴・注意点)	29	奇経八脈・奇穴								
14	手の太陽小腸経 (流注・部位・取穴・注意点)	30	経絡経穴の現代的研究								
15	まとめと確認テスト	31	まとめと確認テスト								
16	定期試験	32	定期試験								
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
経絡経穴概論 医道の日本社 配布資料											
							担当講師	今井 佳江			

鍼灸科【午後部】

科目	東洋医学総合論		必修	履修 学年	1	授業の 方法	講義	時間 数 (単位 数)	32 (2)
目 標	東洋医学概論で学習した内容の理解を深め、組織・器官の作用を理解する。								
内 容									
1	東洋医学の特徴	東洋医学の沿革							
2	〃	人体の見方・東洋医学的治療							
3	〃	日本の東洋医学の現状							
4	生理と病理	生理事質と神（精・気）							
5	〃	生理事質と神（血・津液）							
6	〃	生理事質と神（神）							
7	〃	人体における陰陽							
8	〃	蔵象学説（臟腑）							
9	蔵象	蔵象学説（蔵象学説の要点）							
10	〃	五臟（肝系統）							
11	〃	五臟（心系統）							
12	〃	五臟（脾系統）							
13	〃	五臟（肺系統）							
14	〃	五臟（腎系統）							
15	〃	五臟の相互関係							
16	効果判定								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
東洋医学概論 医道の日本社									
						担当講師	内田 舜		